

畠田 智：第8回有用藻類の分類に関する国際研究会に参加して

第8回有用藻類の分類に関する国際研究会(8th International Workshop on Taxonomy of Economic Seaweeds)は1999年4月25日から5月1日までの1週間ヴェトナムのNha Trang市郊外にあるNha Trang海洋研究所で行われた。

4月24日(土)：吉田忠生先生(北海道大学名誉教授)、増田道夫先生(北海道大学)、鰐坂哲朗先生(京都大学)、川口栄男先生(九州大学)、寺田竜太さん(北海道大学)そして私の6名は関西空港に集まり同じ飛行機でまずHo Chi Minh市へと向かった。空港についたときはもう真っ暗であった。社会主義国初めての私は緊張しながらimmigrationを通過し、荷物を受け取り外に出た。空港の外は人・人・人。かきわけながら大丈夫そうなタクシーを捕まえてホテルに向かった。路はオートバイ(ほとんど日本製)とシクロでごった返し、タクシーはひっきりなしにクラクションを鳴らす。歩道にはアオザイを身にまとった美しい女性、屋台では今時の格好をした若者が楽しげに話をしている。私のイメージとは全く異なり、ヴェトナムは活気にあふれた騒がしい国であった。この日はホテルで333(バーバーバーと読む)というビールと生春巻などのヴェトナム料理を楽しんだ。

4月25日(日)：午前中はぶらぶらと市内観光をしたのだが、Ho Chi Minh市はスリが多いと聞かされた

私はびくびくし通してであった。昼食後、空港にむかった。空港ではConvenerのI. Abbott先生(University of Hawaii)やK. McDermid先生(University of Hawaii)、さらにはB. Santelices先生(Universidad Catolica de Chile)にもお会いすることができた。野呂忠秀先生(鹿児島大学)ともこの空港で合流しワークショップの雰囲気は一気に高まってきた。飛行機は1時間ほどでNha Trang市に到着し、Nha Trang海洋研究所近くの元王室の別荘だったというBao Dai villas Hotelにチェックインした。この日の夜は今回のWorkshop参加者が全員集まりReception Partyが開かれた。

4月26日(月)：Nha Trang海洋研究所の2階にて午前8時より開会式が行われ、Abbott先生、An先生(Nha Trang海洋研究所)による挨拶およびCalifornia Sea Grant ProgramのJ. Sullivan先生による「The Economics of Seaweed Production and their Contribution to the World Markets」というお話があった。その後、各分科会に別れ、それぞれ今後のスケジュールを決めた。今回のワークショップはSargassum, Gelidiales, Gracilaria, Eucheuma, Halymeniaの各分科会で構成されていた。SargassumグループはC. K. Tseng先生(中国科学院海洋研究所)、Lu Baoren先生(中国科学院海洋研究所)N. H. Dai先生(Nha Trang海洋研究所)、吉田先生、鰐坂先生および野呂先生の6名。GelidialesグループはB.



研究会参加者

Santelices 先生, Xia Bangmei 先生 (中国科学院海洋研究所), 増田先生および私の4名。Gracilaria グループは A. Chirapart 先生 (Kasetsart University, Bangkok) と寺田さんを中心に Abbott 先生や Xia Bangmei 先生, Lewmanomont 先生 (Kasetsart University, Bangkok) が参加して進められた。Euचेuma グループは P.H. Tri 先生 (Nha Trang 海洋研究所) および J. Fisher 先生 (B. P. Bishop Museum, Honolulu) の2名。Halymenia グループは川口先生, K. McDermid 先生および K. Lewmanomont 先生の3名を中心に Abbott 先生, Xia 先生も含めて進められた。

4月27日(火): 前日同様各分科会で討論が行われた。特に Dawson の標本が Dai 先生により保管されており, これらの標本を引っぱり出し各グループで観察・再検討が行われた。ちなみにこの日の夜, Bao Dai villas Hotel は停電になり2時間ほどロウソクでの生活を余儀なくされた。

4月28日(水): Field Trips が行われた。2つのグループに別れ, 1つは船で幾つかの島に渡りシュノーケリングでの海藻採集をおこなった。もう1つは車で移動し岸からの海藻採集をおこなった。その後全員で押し葉標本を作製した。ベトナム新産種として *Ulva conglobata* などを採集することができた。

4月29日(木): 再び Nha Trang 海洋研究所の2階にて各分科会で討論が行われた。このころになると各グループでの結果をまとめる動きが出てきて熱い熱い議論が飛び交っていた。研究者による見解の違いが露呈し分類学の難しさを思い知らされた一日だった。

4月30日(金): 最終日のこの日は各分科会でのまとめが行われ, 午後4時頃から今回のワークショップの成果についての報告会があった。Sargassum グループは吉田先生が代表で発表された。ベトナムの Sargassum を中心とした報告で, 特に葉状部の中心に気泡が形成される亜属 *Phyllocystae* について興味深いお話が聞けた。Gelidiales グループは各個人による発表が行われ, まず私が *Pterocladia capillacea* のかけ離れた個体群間での形態比較について下手な英語で話させていただいた。次いで増田先生が Xia Bangmei 先生が持ってこられた中国産 *Pterocladia media* の新知見について報告され, 最後に B. Santelices 先生により *Gelidiella* についてのレビューが発表された。Gracilaria グループは寺田さんが代表し, 1. アジアのオゴノリの学名についての見解, 2. タイ, マレーシア産の扁平状オゴノリ2種の分類, 3. 海南島産の新種とその他, についてす

ばらしいスピーチが行われた。このスピーチは本当にすばらしく終わったとき拍手がおこった。Euचेuma グループは P.H. Tri 先生が報告された。Halymenia グループは川口先生が代表し, 1. ハワイ産の *H. stipitata* とベトナム産の *H. maculata* について, 2. 形態変異の大きい *H. durvillei* 及びその近縁種について, 3. 手触り texture に関する分類形質状態の統一, などが報告された。手触りという数値化できない分類形質をいかに統一すべきかなど, 非常に興味深いお話だった。ここで報告された内容は後日論文として *Taxonomy of Economic Seaweeds vol. VIII* に投稿する事になっており, 興味のある方はそちらを参考していただきたい。この日の夜は Closing Banquet が Bao Dai villas Hotel のレストランで開かれた。An 先生や Sullivan 先生による挨拶の後, Abbott 先生による今回のワークショップで貢献した方への表彰が行われた。日本人として寺田さんがベトナム新産の *G. tenuistipitata* var. *liui* の報告に対して, さらに私が初めての英語のスピーチ御苦勞様ということで表彰してくださった。個人的なことで申し訳ないが, このとき私はいたく感動し, これからのさらなる精進を胸に誓った。その後は Nha Trang 海洋研究所に勤める女性5-6人がアオザイを身にまとい美しい歌と踊りを披露してくれた。ヴェトナムの人は歌が好きなので, さっきほどまでドライバーをしてくれていた男性は何曲も美声を聞かせてくれた。当然この次はこの国の歌だ? という事になった。若手というのはこういうとき必ず駆り出される。日本人として寺田さんと私がそれぞれ1曲ずつ辱めを受けた。ヴェトナム最良の友となった Vy 君 (Nha Trang 海洋研究所) はトラブルメーカーとして大活躍し, お目当ての子と踊ることができ大満足であったのか, あちこちを飛び回り最終的には A. Chirapart 先生にもマイクを握らせた。

今回のワークショップではとにかく多くを経験した。この経験を今後の研究・人生に活かすことが今回この機会をくださった Sullivan 先生, Abbott 先生および増田先生に対する義と受けとめている。さらに An 先生をはじめとする Nha Trang 海洋研究所のみなさんには大会運営に関するすべての事で大変にお世話になった。細やかな配慮・便宜にたいし感謝申し上げる。美しき国ヴェトナム, もう1度訪れたい国の1つとなった。

(〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学理学研究科)